

平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	京都市教育委員会
研究課題	「社会に貢献する生徒の育成」を目指した教育支援組織（サポートボード）としての学校運営協議会の在り方について
研究のねらい	<p>塔南高校では、全国で初めて設置した教員養成系専門学科教育みらい科における小学校現場実習、地域図書館や小学校でのボランティア活動、地域清掃活動等、現在実施している地域と連携した活動を充実させ、さらに未来を創る担い手である生徒が、自らの学びと社会をつなぐ地域課題探究活動を展開する。</p> <p>そのために、従来の学校の枠組みや教職員の発想を越えた取組を社会ニーズに沿って実施し、また地域の方や大学・企業等の力を活かせるしくみや、そうした力の安定的な確保も行うことができる専門のコーディネーターを核とする教育支援組織（サポートボード）としての学校運営協議会の在り方を研究する。</p> <p>研究過程において、塔南高校教職員が研究協議会へ参画することにより、教職員の意識改革を図りたい。</p> <p>また、市立高校における学校運営協議会の果たす役割や運営方法、学校・家庭・地域の連携協働体制構築に関するモデルプランを作成する。</p>
研究の概要	<p><サポートボード機能を有した学校運営協議会の在り方について> 平成31年4月に学校運営協議会を設置し、サポートボード機能を有した学校運営協議会の在り方を検討する。 在り方について研究するため、実際に生徒の課題探究活動を展開し、サポートボードの役割として想定している以下の2点について検証する。 ①学校と地域が連携した取組において、学校と地域の調整や、生徒の社会参加に期待する地域ニーズの把握 ②生徒が設定した課題探究活動のテーマ別に実施する、フィールドワークの活動先の支援</p> <p>塔南高校の教育活動と密接に連携した学校運営協議会の活動を、塔南高校の特色として打ち出すことで、他の市立高校における学校運営協議会のモデルとする。</p> <p><教職員の意識改革について> ・地域・社会と学校が連携する大切さをより一層認識し、新学習指導要領においても重視されている「子どもたちに求められる資質・能力とは何か」を社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組が必要である。 生徒が将来社会で生きるために必要とされる力は何か。そのために高校における学習で何を身に付けさせるべきかを議論し、生徒の主体性や社会貢献意識の醸成を図る指導法及び評価法等を研究する。 ・研究協議会において教職員と委員の意見交流—高校生に求められる力 ・授業・取組の公開—高校の活動を知らせる機会、指導力の向上 ・学校関係者評価を受ける団体の一つとするのではなく、学校の自己評価及び学校関係者評価を総合的に評価し、取組の改善につなぐ。</p>
研究の成果	<p><サポートボード機能を有した学校運営協議会の設置に向けて> キャリア教育プログラムの一環として、生徒が少人数で企業や大学等を訪問して働く人々と対話し、企業や働く人が社会にどのように貢献し、学ぶことが社会とどのようにつながっているかを知る「キャリアフィールドワーク」の連携先を、研究協議会委員から紹介いただいた。サポートボード（教育支援組織）がどのような役割を担い、また必要な実務を明確化させることができた。さらに、学校及び地域・社会の双方に意義のある活動となる要素を得ることができた。</p> <p><教職員の意識改革について> ・学校運営協議会の設置に向けて、地域の方々が参画する組織が学校運営に関わることで、学校の教育活動が活性化することを教職員に意識づけられた。 ・研究協議会でこれからの生徒に必要な力として、多方面の専門的見地から意見をいただき、キャリア教育について教職員が再考するきっかけとなった。 このことから、「キャリアフィールドワーク」の中で、生徒が将来の職業を意識した企業訪問にとどまらず、働く方と対話することで、学び続けることや挑戦すること、人とのつながりの大切さを気づく機会とすることを教職員間で共有し取り組んでいくこととなった。 ・研究協議会において「塔南高等学校学校運営協議会方向性」をまとめた（別紙）。</p>
本件 問い合わせ先	京都市教育委員会学校指導課高校教育担当 075-222-3811